

令和5年7月31日

亀岡市議会議長 菱田 光紀 様

亀岡市議会議会運営委員長 福井 英昭

委員会調査報告書

当委員会で調査した事件の結果について、亀岡市議会会議規則第110条の規定により下記のとおり報告します。

記

- 1 派遣期間 令和5年7月5日（水）～6日（木）
- 2 派遣場所 愛知県知立市、愛知県犬山市
- 3 調査項目 議会改革の取組について
- 4 派遣議員
福井英昭、山本由美子、竹内博士、三上 泉、齊藤一義、木村 勲、
西口純生 （議長：菱田光紀）
- 5 概 要 別紙のとおり

視 察 概 要

◎令和5年7月5日（水）

視 察 先 愛知県知立市議会

視察時間 午後1時30分～3時30分

調査項目 議会改革の取組について

説 明 者 中野智基議長 神谷文明副議長（議会改革特別委員会委員）
（議会改革特別委員会）

石川智子委員長 杉浦弘一副委員長 島田義雄委員 山崎りょうじ委員
（その他議員）川嶋太久郎議員 柴田勝議員
（議会事務局）議事課長 ほか

視察の様子



視 察 場 所	愛知県知立市議会
調 査 項 目	議会改革の取組について
視 察 の 目 的	知立市議会では、議会モニター制度をはじめ広聴活動に幅広く取り組まれるとともに、市議会のデジタル化を推し進められるなど、積極的に議会改革を推進されており、マニフェスト大賞優秀躍進賞の受賞や月間ガバナンスに特集されるなど、大変高い評価を得られている。そのような取組事例を学ぶことで、住民参画の向上等を目指す本市議会の課題解決やさらなる改革に向けて参考としていくこととする。
施策等の概要	知立市議会の主な取組 ・ 議会モニター制度による市民意見の活用 ・ 高校生議会の開催 ・ 市議会のデジタル化、ペーパーレス化の推進 ・ オンライン議会報告会、市民と議員の合同研修会、タウンミーティング形式の意見交換会の開催 ・ 議会基本条例の運用、見直し ・ 議員報酬等特例条例の策定 等
考 察	○議会モニター制度については、議会運営などについて、市民7名を指名し意見を頂くというものであった。その選定方法にも工夫があり合理的に考えられており、亀岡市議会でもこの方式で考える議会モニターであれば、そのまま取り入れることも可能ではないか。ただし欲張って広聴機能を持たすとするならば、人数・選定方法・その手法等の検討が必要である。議会のデジタル化・ペーパーレス化については、知立市議会のいうペーパーレスまでならば十分到達できるものであり、今後の努力次第ではないか。高校生議会を4年に一回実施されているようだが、成人式実行委員の皆さんとの意見交換会で十分ではないか。議員報酬等特例条例についても検討する必要はある。 ○議会モニター制度の導入にあたっては、募集人数やその考え方（年代や地域に偏りがないようになど）、活動内容、報酬の有無、委嘱期間、また、モニターの方からのご意見をどのような形でお聴きし、反映していくなど、導入している他の議会においても方法は様々なので、本市として考えていく必要がある。市議会のデジタル化を進めていくために、議員主導で検討していく組織が必要であるとして、「知立市議会DX推進PT」を発足されているが、本市では現状プロジェクトチームは立ち上がっていない。人選やPTの目的について合意形成などが必要であるが、少しでも運用や利便性向上につな

	がるようPTの発足も検討すればと考える。オンライン議会報告会の実施については、本市では実施しておらず、わがまちトークのリアル開催としている。コロナ禍で中止していたが早い時期にリアル開催ができればとの声も上がっている。知立市議会ではオンライン議会報告会（ハイブリッド方式）で開催したことにより、人数的にはリアル開催と変わらなかったが、年代が通常よりも若く、初参加が多くみられたと説明いただいた。オンライン実施にあたっては明確な目的や技術面、運営方法などの準備が必要と考える。 ○知立市議会議長の「行政の監視は議会が行うが、では議会の監視は誰が行うのか」との問いがあったが、本市においても「議会の監視役」が手薄になっている。既存の子ども議会の継続と、さらに中学生や高校生へ派生する流れを作ること。そして、オンラインを使って既存の議会活動をさらに発信することからスタートし、モニター制度導入への機運とすることが効果的と見る。オンラインやデジタル化について、本市では議会の発信程度にとどまっているが、知立市ではコロナ禍を一つのきっかけに、議会報告会や議会事務局と議員間のやりとりなど、オンラインでコミュニケーション（双方向）を実施している。本市においてもZ o o mを活用したオンラインコミュニケーションや、サイボウズを使ったオンライン上での資料共有など「予算をかけずに手軽にできる」ことから踏み切ってみる必要があるが、ネット環境やセキュリティ（それに付随するコンプライアンス問題）などが課題と考える。ペーパーレス化もペーパーゼロと言い切っておられて強い決断のもとで実施されていたため、本市でもある程度は強引さも出しつつ、期限や条件を決めて実施する必要性がある。 ○議会モニター制度による市民意見は、議会運営に関わる意見に限るというのが参考になった。市民の政策的要求を聞いても、理事者ではないので参考にする程度のことでとどまってしまうが、よりよい議会運営や議会活性化につながる手法となっているので、本市で議会モニター制度を取り入れるのなら、ぜひ参考にして同様のシステムにしていければよいと思った。ペーパーレス化を進めるにあたって、必ずやるという覚悟でされている。本市も、本気で来年度から完全ペーパーレスを行うなら、全議員の覚悟と同時に、一定の研修やサポート体制も必要である。 ○議会モニター制度の導入は可では。各学区に、再任を1回のみで回す。ペーパーレス化の経費削減は分かりやすく目指す姿である。
--	---

	○亀岡市では広報広聴会議（広聴部会）で中学生が議員と話そう会があるが、高校生議会を開催し、市政への興味と選挙の投票率を上げる効果を期待する。知立市では10代の投票率が高かった。課題は学校と授業の影響と日程・時間調整。質問時の傍聴者・理事者への資料の提供が必要。 ○市民への広聴活動に視点を置き、高校生議会と銘打って意見を聞く点には手法の違いを感じた。議会モニター制度による聞き取り、参加者を募る手法、多様な世代への取組についても、工夫や努力が見られた。オンライン会議では市民との会話を重く受け止め、多くの若者の参加が見られるようになってきており、市民との会話を止めない施策であった。ペーパーレス化の推進については、傍聴者用スクリーンでの資料表示等も含めてペーパー削減の努力が見られ、その効果は約315万円とのことであった。また議会基本条例運用のもとで議員報酬等特例条例を制定され、議員が議会の会議等を長期間欠席した場合の報酬等の支給について特例を定めており、本市にも適用できる課題となり得る事案であった。 ○議会報告会をハイブリッドで年4回開催されていたが、コロナが一定落ち着きを見せているので通常の議会報告会が開催できると考える。本市では、希望自治会によるわがまちトークを再開してはどうか。議会モニター制度について、市民ニーズを聞くための手段として、団体推薦4名、公募3名の計7名によって、1年任期でされている。本市でも取り組むことで市民に開かれた議会の新たな一步を踏み出すべきだ。ペーパーレス化の取組について、本市でもタブレット端末利用の議員研修を重ねることで実現可能と考える。
委員意見等	○正直ペーパーレス化については、我々が限界と見ているところが、知立市議会の到達点であったようだ。ただしデジタル化を利用した会議や、広聴活動については見るべきものがあり、今後、亀岡本市議会でも積極的に検討を加えて、より参加しやすく効率的な広聴活動として取り入れることは可能である。 ○議会モニター制度については、市民の意見や要望などを広く聴取し、市民ニーズを反映した議会運営が図れるよう、早期の導入に向けて検討すればと考える。議会のデジタル化を進めていくために、研修の実施も含め、本市においてもプロジェクトチームを立ち上げて、積極的な活用、利便性向上につながることであればと考える。 ○知立市議会は「市議会のデジタル環境」と「市民に開かれた議会」を、より実践的に行っており、効果や成果も見えてい

	るのが先駆的だと感じた。特にデジタル化やオンラインはこれから先を考えると必要急務であるため、議会においても率先してスタートしていきたいところ。市の広報やシティプロモーションとも関連づけて「発信」を今一度見直し改善する必要がある。実際にペーパーレス化において1年間で315万円の削減があった実績から本市においても段階を作って確実なペーパーレススケジュールのもとで実践するべきだと思う。 ○議会モニター制度による市民意見の活用というテーマから、どのような意見を市民モニターに出していただいているのか注目していたが、政策的な意見ではなく、議会運営に関する意見に限られていた。「市政の監視は議会の役目。ではその議会の監視は誰がするのかとの考えから設けたもの。」という言葉が印象に残った。早速、タブレットの研修担当を命ぜられたが、どこまでできるか自信はない。できる人という発想ではなく、できない人が一歩ずつ力を合わせてできるようになるような取組ができればよいと思う。サイボウズofficeのようなシステム導入も必要かと思う。 ○オンライン会議をチャットで行っても参加者は同じ方が多い。政治に関心がないことは悪いことではなく、平和な証であると考え。議会がよくやっている証拠だ。 ○議会の一般質問で知立市は代表質問がなく個人質問のみであった。亀岡市議会も同様でよいのではないか。ペーパーレスについては、予算・決算は紙資料が必要と考えるが、その他についての推進に研修は再度必要。 ○議会モニター制度や多様な世代へのオンライン会議の運用は本市以上に取り組まれていた。議場の理事者側にも2台のモニターを設置するなど参考資料の共有ができており、傍聴者も含めて情報共有できる設備であった。質問や説明に対する理解度の格段の違いと、ペーパーレス化への体制ができ上がっており、市民を含む全ての方へ配慮した分かりやすく、理解しやすい環境となっている。本市も議場での議論で、早期に情報共有できるようにすることが、ペーパーレス化と併せて市民福祉の増進につなげられるものと感じた。 ○どこの議会においても市民に開かれた議会を目指して様々な工夫をされているが、同じところでつまずき、新たな取組へとチャレンジされている。本市においても目的を見失うことなく果敢にチャレンジすべきと感じた。
--	--

視 察 概 要

◎令和5年7月6日（木）

視 察 先 愛知県犬山市議会

視察時間 午前10時00分～正午

調査項目 議会改革の取組について

説 明 者 柴田浩行議長

（議会運営委員会）大沢秀教委員長 諏訪毅副委員長

（その他議員）島田亜紀議員

（議会事務局）事務局長兼議事課長 議事課課長補佐 議事課主査補

視察の様子



視 察 場 所	愛知県犬山市議会
調 査 項 目	議会改革の取組について
視 察 の 目 的	犬山市議会では、市民自ら考えを主張できる市民フリースピーチ制度を運用するとともに、いちにち女性議会や親子議場見学会を開催するなど、市民が議会と接点を持てる特色ある広聴活動に積極的に取り組まれている。また、地元大学とも連携協定を締結されて議会改革を進められており、そのような取組事例を学ぶことで、住民参画の向上等を目指す本市議会の課題解決やさらなる改革に向けて参考としていくこととする。
施策等の概要	犬山市議会の主な取組 ・市民フリースピーチ制度の運用 ・いちにち女性議会の開催 ・親子議場見学会の開催 ・市民との意見交換会・市民と語る会の開催 ・タブレット端末の導入、ペーパーレス化の推進 ・名古屋経済大学との連携協定 等
考 察	○市民フリースピーチについて、発想は面白いが、議会開催中に行う必要があるのかどうか。だからこそその結果を求められるのではないか。「市民」というより「中学生」や「高校生」のフリースピーチを議会休会中に行うほうが、様々なよい気づきが得られるように思った。もちろん、女性・高齢者・学校関係・自治会等々。親子議場見学についても素晴らしいことであり、議場見学だけではなく、コンサートや発表会などいろいろな使い方を模索するべきと考えている。ペーパーレス化については、どこをペーパーレス化と呼ぶのか。亀岡市議会にはその指標がなかったように思うが、やはりそこまでかという一定の答えは得られたように思う。大学との連携についてはやはり一考するべきだと思う。学生の議会参加や、逆に学識経験者を訪ねるなど、双方向の連携が必要と考える。 ○犬山市議会では、市民参加の取組として市民フリースピーチ制度を導入されているが、本市で導入する場合、発言内容の確認や日程調整、市民の意見を聞いた後、どこで（全協、常任委員会、議運など）議論していくかなどプロセスとして考えていく必要がある。市民フリースピーチも回を重ねていくと、応募者に偏りが出てしまう（60代、男性が多い、同じ人が応募する）などの課題もあるように伺ったので、若い世代を含めた幅広い世代の方にどのようにすれば応募していただけるか検討が必要と考える。

	○受け身ではなく積極的な行動を意識し「市民参加」「議員間討議」「議会提言」の流れのもとで形にしている。開かれた議会と幅広く不特定多数へ開示するよりも「市民フリースピーチ」「女性議会」「親子議場見学会」「大学と協定」など市民との接点になるチャンネルを増やしている。これについては本市でもそのままトレースできると分析する。全国的に議会との接点が薄いとされる若者層も、子どもを対象とした見学会などを通じて保護者へ発信することで間接的にアピールする視点と意識は本市でも大いに参考になる。さらに、市民との意見交換会などでは、一方的に市民からの要望や意見を議員が聞くだけになりがちな状況を、いかにファシリテーション力を生かして執行権者ではない議員の役割やその場での会話の方向性などでコントロールしている。本市においてもファシリテーション力養成については研修などを導入してレベルアップさせる必要があると感じる。 ○親子議場見学は早速参考にして、この夏取り組むことになっている。クイズラリーなど楽しみながら、議会の仕組みをお子さんに学んでいただき、議会に興味関心を持ってもらえる取組にしていきたい。いちにち女性議会やフリースピーチなど、広聴活動の域を超えて、市民の議員的な働きかけを取り入れておられる。特定の政策意見に偏ったり、何回も同じ人が申し込んだりするなどの難しい側面もあるかもしれないが、議会にとっては風通しよく、市民が参画する機会になるのではないか。 ○市民フリースピーチはどうしても同じ方、クレーマーの参加者が多いため工夫が必要である。いちにち女性議会は大変面白い取組で、いちにち高齢者やいちにち中学生も有りかと考える。 ○大学との連携協定の締結、議会傍聴要請、意見交換会の実施。子育て世代の市政関心度を上げるための施策を考える委員会の制定。Z o o mによるオンライン会議の実施。(緊急会議や災害時の会議開催のため) ○市民参加によるフリースピーチ制度の導入で議会の権限を最大限に発揮させていた。その内容は議会内で検討の上で、HP等により公開する仕組みとされており、全議員の参加を規定し共有されているものであった。幅広く参加できるように時間帯の配慮や年齢制限なしとする仕組みは、住民を意識した手法として評価できる。いちにち女性議会については、実行委員会を作る中で、女性11人が参加し年齢層は10代～70代までと幅広く、応募から事前勉強会を経て進められて
--	---

	いた。開催目的は議会への関心度の高揚であって、選考されたサポート議員の対面指導により質問内容や提案についてフィードバックしている。市民との意見交換会は、会場ごとにテーマが分けられ、令和４年度は市女性職員を対象とした意見交換会を実施されていた。親子議場見学会では動画を使って市議会や議員などについて親子に楽しく伝えており、その手法としてクイズラリーを競うゲーム形式とされて関心度を高められていた。名古屋経済大学との連携では議会だよりのデザインへの参考とするなどの効果も出ている。その他、タブレット端末導入・議会ＩＣＴの取組では事務作業の削減の成果があり、オンライン会議では迅速な情報提供ができている。 ○いちにち女性議会の開催によりその参加者から新たな議員が誕生している。議会活性化の観点からも様々な年代に向けて検討してもよいのではないか。市民との意見交換会では、会場ごとにテーマを決め、著名人の講演会を同時開催するなど参加しやすい工夫がされている。わがまちトークの再開に向けて参考になった。親子議場見学会の開催によって子どもと親の議会への関心を呼び起こしていた。本市でも８月の開催状況を見て工夫を凝らし、議会への関心を深めてもらえればと思う。
委員意見等	○フリースピーチを含めた様々な広聴の機会に力を入れておられたが、いずれにしてもマンネリ化する前に新しい手法を生み出す必要があるように感じた。よい機会になった。広報委員会はあるのに広聴組織がなかったが、その分議会の中核・ベテランが意図した発想を繰り出しているように感じた。本市議会の広報広聴会議は、正直いってとても優れた制度であると思う。前期に広聴の特別委員会を設置してはとの見解もあったが、特別委員会にすれば発想の自由度や発展性の速度自体が失われると考えられる。そういった経験から現広報広聴会議を持った経過があり、当分はこの組織を存続してもよいのではないか。 ○市民フリースピーチ制度（５分間発言）などの取組は、提案された市民意見を全員協議会において議員間討議を行い、議会の意見として行政へ政策提言していくというもの。市民に「参加すれば、実現できる。」という気持ちが芽生え、市民参加が活発になるなどの効果が考えられ、「市民に開かれた市議会」を掲げて改革を進めてきた本市としても、一つの手法として検討してもよいのではと感じた。いちにち女性議会については、募集から女性議会開催当日までの間、伴走型で議員

	が支援することとしており、準備が大変なので任期４年のうちに１回は開催していきたいとのことであった。家庭・職場・育児などに関して日頃から抱えている市政に対する御意見、御要望を訴えていただく機会であり、市政への関心を深めていただく機会にもなっており、幅広い年代層の方が参加されている。いちにち女性議員として参加された方が実際に議員になられたことや一般質問された内容が実現したとの話も伺い、貴重な取組であると感じた。一方で、実施に当たっては双方に負担が大きいと感じ、できる限り負担軽減を図る中で、実施することができればと考える。犬山市議会では、平成２９年度から親子議場見学会を夏休み期間中に開催されている。議場見学会の後、第２部としてクイズラリーを実施され好評とのこと。本市においても広聴部会の取組として、今年度（令和５年８月１９日）実施予定となっている。ゲームも考えていると伺ったが、犬山市議会の取組も参考にし、今後に生かしていただければと思った。 ○「開かれた議会」「市民と距離が近い議会」などよく言われているが、犬山市議会はいかに多くの人と接点を持つてつながるか（参加させるか）という視点と、そのための情報の入り口対策がすばらしいと感じる。本市も子ども議場見学会に始まり、議員がまちなかでインタビューするなど積極的な行動を行っているが、犬山市議会のように接点を増やす（チャンネルを増やす）ことが、今よりもさらに市民との距離を縮めるきっかけになると強く感じた。 ○市民との意見交換会・市民と語る会の開催について、説明を受けた。いろいろな工夫とともに苦労もされていると思う。本市でも広報広聴会議の活動として、わがまちトークが、新しい対話の形を産み出したところで、新型コロナウイルス感染症の影響で中断されたままになっている。市民が議会に対して要望を言うというものから、小グループで市民が全員発言する中で、議員が少しアドバイスや情報を挟むという形で、わがまちの将来について語り合うような場をつくっていきたい。そのためには、ファシリテーション能力が必要となる。女性議会の取組をきっかけに議員になられた方がいて感動した。そのような取組ができればすばらしいと思う。 ○いちにち市民議員として、多種多様な方々になっていただくことができないか。親子クイズラリーを行い、若い年代層に議会に関心を持っていただくよい企画だと思った。大学との連携協定は大学側からの話でなければ、連携倒れになると考える。
--	--

	○犬山市の完全ペーパーレスでは予算書と決算書は併用されていたので、本市も同様でお願いしたい。 ○フリースピーチ制度を導入し市民参加を促す試みを図り、自由に発言できる環境が整えられており、そこで出た意見を議会で検討・討議し、ＨＰで公開されるなど市民との共有ができています。タブレット端末導入で完全ペーパーレス化に取り組み、その成果を上げているのは、本市も見習うべきであると考えます。いちにち女性議会の開催、市民との意見交換会、親子議場見学会など、幅広く議員との会話の場を拡充していることも学ぶべきことであると考えます。設備的な投資も含めて、積極的な議会の行動には、大きな収穫であったと受け止めている。今回の視察調査では議会運営に大きな教訓が得られた。 ○犬山市議会においても市民に開かれた議会を目指して様々な工夫をされているが、同じところでつまずき、新たな取組へとチャレンジされている。本市においても目的を見失うことなく果敢にチャレンジすべきと感じた。
--	--